

乳腺外科研修プログラム

平成 29 年度版

【Ⅰ】 乳腺外科の診療と研修の概要

現在、乳癌は女性の悪性疾患の第 1 位です。12 人に 1 人の女性が乳癌に罹患すると推計されています。すでに国民病とも言うべき乳癌ですが、当乳腺外科学講座はその最新医療を担うべく平成 19 年春に開設されました。以来、多摩地区の乳癌診療に留まらず、国内外の臨床試験を推進するとともに、基礎医学と臨床医学を結ぶトランスレーショナルリサーチを展開しています。そこで、研修医の皆さんが乳癌に興味を抱いて学んでいただけるように、乳腺疾患の画像診断・手術・病理診断・薬物療法の基礎について習得していただきます。

【Ⅱ】 研修目標

I. 職業倫理

【到達目標】

1. 社会人として、医師として良識ある行動をする。
2. 患者の権利・尊厳を尊重し、適切な医療を行う。
3. 常に自己を振り返りながら研鑽に努める。

【具体的目標】

- (1) 挨拶をきちんとする。(態度)
- (2) 医師としてふさわしい身なりをする。(態度)
- (3) ルールやマナーを遵守する。(態度)
- (4) 上長・指導医・上級医の指示に従う。(態度)
- (5) 研修の成果を適切に自己評価する。(態度)
- (6) 不足している部分について積極的に学習する。(態度)

II. 患者—医師関係

【到達目標】

1. 患者、家族と良好な関係を築くことができる。
2. 患者、家族のニーズを身体的・心理的・社会的側面から把握できる。
3. 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。

【具体的目標】

- (1) 個々の診療場面(病棟・外来・救急外来)において適切な医療面接を行える。(技能)
- (2) 患者、家族の訴えをよく聴き、苦痛や不安について共感的に理解する。(態度)
- (3) 患者の個人情報管理に留意する。(態度)

III. 安全管理

【到達目標】

1. 常に安全な医療を心がける。
2. 医療安全に関するルールを理解し、遵守する。
3. 個々の場面において自分のできることとできないことを判断し、適切な行動をとることができる。

【具体的目標】

- (1) 医療安全マニュアルに基づいて個々の医療行為を行う。(態度)

- (2) 個々の医療行為に際して、定められた確認(患者確認、指差確認)の手順を確実に実施する。(態度)
- (3) 医療現場における確実な情報伝達に留意する。(指示を明確に。口答指示は手順を守り、確実に伝わったことを確認する。)(態度)
- (4) スタンダード・プリコーションを理解し、実施する。(態度)
- (5) 不確実なこと、自己の能力を超えることを強行せず、指導者に援助を求める。(問題解決、態度)

IV. チーム医療

【到達目標】

1. 診療チームのメンバーと良好な関係を築く。
2. 診療チームにおける自己の責任を果たす。
3. チームのメンバーや、他施設の人と適切に情報交換を行う。

【具体的目標】

- (1) チーム医療における自己の責任を果たす。(態度)
- (2) チーム医療のメンバーと適切にコミュニケーション(報告、連絡、相談)する。(態度)
- (3) 場面(回診・カンファレンスなど)に応じて適切に症例呈示を行うことができる。(技能)
- (4) 診療録、退院サマリーを遅滞なく適切に記載する。(問題解決、態度)
- (5) 紹介状、他科紹介、返事を適切に作成できる。(解釈)

V. 医学知識

【到達目標】

1. 基本的な病態・疾患・検査法・治療法についての知識を身につける。
2. 個々の患者について適切な臨床的判断ができる。
3. 必要な知識を獲得する手段を身につける。

【具体的目標】

- (1) 基本的な病態・疾患・検査法・治療法についての知識を身につける。(想起)
- (2) 個々の患者について、病歴、診察所見、検査所見を適切に解釈・評価できる。(解釈)
- (3) 個々の患者について、プロブレムリストの作成、鑑別診断、検査・治療計画の立案ができる。
- (4) 診療上必要な知識を獲得することができる。(問題解決)
- (5) 乳癌に関連する薬剤に関する作用と副作用について理解する。(想起)

VI. 診療技能

【到達目標】

1. 基本的な診療技能(医療面接・身体診察・検査手技・治療手技)を身につける。

【具体的目標】

- (1) 個々の診療場面(病棟・外来・救急外来)において適切な医療面接を行うことができる(Ⅱ.患者－医師関係にも記載)。(技能)
- (2) 主訴、既往歴、治療歴など乳腺外科領域の診療に必要な情報を含む医療面接が適切に実施できる。(技能)
- (3) 成人の基本的な身体診察(バイタルサイン、全身状態、皮膚、頭頸部、胸部、腹部、四肢、神経系)を適切に実施できる。(技能)
- (4) 患者および家族の精神症状を適切に把握できる。(技能)
- (5) 乳房の診察を適切に実施できる。(技能)
- (6) 基本的な検査手技・治療手技を適切に実施できる。(技能)

Ⅶ. 医療の社会性

【到達目標】

1. 保健医療法規・制度を理解し、遵守する。
2. 医療保険、公費負担医療を理解し、コスト意識を持って適切に診療する。

【具体的目標】

- (1) 保健医療法規にのっとり適切な診療をする。(問題解決、態度)
- (2) 医療保険、公費負担制度を理解する。(想起)
- (3) 医療資源を無駄遣いしないように留意する。(態度)

Ⅷ. 経験目標

当科研修中に経験してほしいもの。(○:ほぼ全員経験可能、△:チャンスがあれば経験可能)

項目	研修期間		
	1か月	6週間 または 2か月	3か月以上
《臨床検査》			
乳腺超音波検査と読影	○	○	○
マンモグラム読影	○	○	○
穿刺吸引細胞診または針生検	△	○	○
《手技・手術》			
注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)	○	○	○
《経験が求められる疾患・病態》			
良性乳腺疾患	△	○	○
乳癌	○	○	○
《経験できる可能性のある手術》			
乳癌手術(第1または第2助手)	○	○	○
乳房生検(第1または第2助手)	○	○	○
乳房生検(術者)		△	○
《臨床研究》			
症例の学会発表または論文作成		△	△

【Ⅲ】 研修方略

I. 指導スタッフ

氏名	職位	略歴など	専門領域
井本 滋	教授・診療科長	慶應義塾大学医学部卒	乳腺外科
上野 貴之	準教授	東京大学医学部卒	乳腺外科
伊坂 泰嗣	講師・医局長	杏林大学医学部卒	乳腺外科
宮本 快介	助教・病棟医長	杏林大学医学部卒	乳腺外科
北村 真奈美	助教・外来医長	杏林大学医学部卒	乳腺外科

II. 診療体制

研修医は主治医を指導医としてチームを組み、診療・処置をともにこなす。

III. 週間予定

	午前					午後					
	7:30	8	9	10	11	13	14	15	16	17	18
月	抄読会	朝カンファ・外来・手術・病棟				手術・病棟					
火	外来・病棟					外来・病棟		検査			
水	朝カンファ	教授回診	外来・手術・病棟			外来・手術・病棟				病理カンファ	
木	外来・病棟					病棟		検査			
金	外来・病棟					病棟		検査			
土	外来・病棟										

IV. 研修の場所

病棟:S-3、S-8、HCU、SICU

外来:乳腺外来、1・2次救急外来

カンファレンス:医局、S-3カンファレンスルーム、病理カンファレンスルーム、手術室

V. 研修医の業務と裁量の範囲

《日常の業務》

1. 入院患者について病歴を聴取し診察を行いカルテに記載する。
2. 朝と夕方に入院患者を回診する。
3. 定時採血は看護師が行うが、採血の手技に十分習熟するまでは研修医が行う。

《当直・休日出勤》

1. 4週間に4回前後の当直がある。
2. 当直の業務は、上級医1名・研修医1名の2名体制で行い、当直の時間帯について入院患者および救急外来を受診した乳腺外科の患者の対応と処置を行う。
3. 当直の翌日の勤務は17時までとする。ただし、当直帯の勤務内容及び体調により当直翌日の勤務については考慮する。
4. 休日でも当番日は病棟にて入院患者の回診を上級医と行う。
5. 4週間に少なくとも2日は完全に duty off とする。

《裁量の範囲》

1. 「研修医が単独で行ってよい医療行為」の範囲内で、単独で行うことを指導医が認めたものについては、指導医の監督下でなく単独で行ってもよい。ただし、通常より難しい条件(全身状態が悪い、医療スタッフとの関係が良くない、1~2度試みたが失敗した、など)の患者の場合には、すみやかに指導医・上級医に相談する。
2. 指示は、必ず指導医・上級医のチェックを受けてからオーダーする。
3. 診療録の記載事項は、かならず指導医・上級医のチェックを受け、サインをもらう。

VI. その他の教育活動

1. CPC やリスクマネジメント講習会などの院内講習会には、当直であっても義務として積極的に出席すること。その間の業務は指導医・上級医が行う。
2. 症例報告などを希望する場合は、学会発表並びに論文作成の指導を受けることができる。
3. 乳癌に関連する学会等の会員および専門医の取得に関する説明を受けることができる。

【Ⅳ】 研修評価

研修目標に挙げた各項目について、自己評価および指導医による評価を行う。なお、指導医が評価を行うために、コメディカル・スタッフや患者に意見を聞くことがある。

評価は「観察記録」、すなわち研修医の日頃の言動を評価者が観察し、要点を記録しておく方法により行い、特に試験などは行わない。研修終了時に診療科長が研修医と面談し、指導医の記載した評価表に基づいて講評を行う。また、評価表は初期臨床研修委員会に提出され、初期臨床研修委員会は定期的に研修医にフィードバックを行う。

上記以外に、研修目標達成状況や改善すべき点についてのフィードバック(形成的評価)は、随時行う。

【Ⅴ】 その他

当科の研修に関する質問・要望がありましたら下記の臨床研修係に御連絡ください。

臨床研修係： 伊坂 泰嗣